



# 01

KOBELCOの  
価値創造



# KOBELCOグループのあゆみ

神戸製鋼所は、1905年9月1日に合名会社鈴木商店が、神戸・脇浜の小林製鋼所を買収し、神戸製鋼所と改称して誕生しました。創業以来、120年にわたって多様な社会課題の解決に向け、様々な苦難を乗り越えて挑戦を続けてきました。

## 日本の産業自立に向け、多様な事業領域へ参入

神戸製鋼所の前身である鈴木商店は、「国益を増進させること」を企業理念として、当時、日本が輸入に依存していた工業製品の国産化に取り組みました。当社はその理念を受け継ぎ、重工業分野における「日本の産業自立」に貢献するという使命のもと、祖業である鉄鋼事業に加え、機械、非鉄金属、エンジニアリング、建設機械等、事業領域を広げるとともに、多くの国産第一号製品を世に送り出してきました。

創業初期には廃業の危機に直面しながらも、その危機を乗り越え、その後も第一次世界大戦後から続いた不況や、鈴木商店の倒産等の苦難の時代が続きましたが、そうした苦難の中でも新たな事業分野の開拓に挑戦し続けました。

創業からこの時期にかけて、現在に続く多様な事業領域の基盤が形成されました。

1905~

### 全社

1905 創業



創業初期の頃の社屋の様子

### 素材系事業

1905 鑄鍛鋼事業スタート

1916 鋼材事業スタート

1917 銅事業スタート

1937 アルミ事業スタート

1940 溶接事業スタート  
～高級溶接棒の生産開始  
(国産初)～1955 金属チタン事業スタート  
～国内初の工業生産開始～1959 鉄鋼一貫  
体制の  
確立鉄鋼一貫体制の確立  
(灘浜第一号高炉)1968 タイに初の海外製造拠点  
設立(被覆アーク溶接棒の  
製造・販売)1970 加古川製鉄所における  
鉄鋼一貫体制確立1979 国際統一商標として  
「KOBELCO」ブランド  
制定1990 米国に自動車用溶融亜鉛  
めっき鋼板の製造・販売  
拠点を設立

### 機械系事業

1914 機械事業スタート  
～高圧空気  
圧縮機を開発  
開始(国内初)～

高圧空気圧縮機

1926 エンジニアリング事業  
スタート  
～国内初のセメントプラント  
完成～1930 建設機械事業スタート  
～国産第一号  
の電気ショベル  
完成～

電気ショベル

1962 海外プラント事業開始  
～当時日本最大のプラント  
輸出～(東パキスタン)

東パキスタン肥料プラント

1975 都市交通システム事業  
スタート  
～沖繩国際海洋博覧会での  
「海洋博KRT」運転開始～1983 米国Midrex社買収  
～還元鉄/新製鉄プラント  
ビジネス開始～

## 戦後からの復興とグローバル展開

当社は第二次世界大戦の終結後、わずか3ヵ月後には線材の生産を再開し、日本の早期復興に貢献しました。

また、戦後復興の中、1949年に日本で初めてチタンの研究開発に着手し、1955年には工業生産を開始するなどの新たな挑戦を続けるとともに、灘浜第一号高炉(現在の神戸線条工場)の完成による鉄鋼一貫体制の確立、加古川製鉄所の建設、都市交通システム事業のスタート等、素材系事業、機械系事業のそれぞれの領域で事業の拡充を図りました。さらには、海外プラント事業の開始、初の海外製造拠点の設立、米国Midrex社買収による還元鉄/新製鉄プラントビジネス開始等、グローバル展開を加速したことも、この時期の大きな成果となりました。

1945~

1995～

## 震災からの復興と電力事業への参入

1995年の阪神・淡路大震災では、当社も神戸製鉄所（現在の神戸線条工場）の高炉が損傷するなど多くの被害を受けましたが、当初6カ月は必要と予想された高炉の再稼働を2ヵ月半の短期間で実現するなど、神戸の震災復興のシンボルとなりました。

そして、震災の翌年には製鉄業での自家発電のノウハウ等を活かした電力卸供給事業という新たな挑戦を開始し、2002年に神戸発電所1号機の営業運転を開始しました。今日に至るまで神戸市及び阪神地区の電力の自給率向上に貢献しています。電力卸供給事業の開始により、現在の素材系事業、機械系事業に電力事業を加えた3つの事業領域を柱としてお客様の課題解決に貢献していく体制が完成しました。

また、自動車分野をはじめ、米国や中国に現地製造・販売拠点を設立し、お客様のニーズにお応えする体制を構築しました。

## 全社

1995 阪神・淡路大震災発災（約1,000億円の被害）



阪神・淡路大震災当時の様子

## 素材系事業

2003 米国に自動車サスペンション用アルミ鍛造部品の製造・販売拠点を設立

2004 中国に自動車用特殊鋼線材加工拠点を設立

2014 中国に自動車アルミパネル材の製造・販売拠点を設立

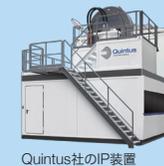
2014 中国に自動車用冷延ハイテンの製造・販売拠点を設立

2016 米国にアルミ押出・加工品の製造・販売拠点を設立

## 機械系事業

2006 米国に非汎用圧縮機の製造・販売拠点を設立

2017 スウェーデンQuintus社買収（IP装置の世界トップメーカー）



Quintus社のIP装置

2021 (株)神鋼環境ソリューションを完全子会社化

2022 三浦工業(株)との業務提携開始

## 電力事業

1996 電力卸供給事業への参入決定

2002 神戸発電所1号機営業運転開始  
～電力卸供給事業スタート～

2004 神戸発電所2号機営業運転開始



神戸発電所1・2号機

2019 真岡発電所1号機営業運転開始

2020 真岡発電所2号機営業運転開始



真岡発電所1・2号機

2022 神戸発電所3号機営業運転開始

2023 神戸発電所4号機営業運転開始

## 次の100年に向けたサステナビリティ経営の深化と魅力ある企業への変革

2017年に発覚した品質事案では多くの皆様にご迷惑をおかけしましたが、策定した再発防止策を完遂のうえ、現在ではお客様から喜ばれる品質を目指してKOBELCO TQM活動を推進しています。また、新たなグループ企業理念の制定、マテリアリティ（中長期的な重要課題）の制定等、世の中のサステナビリティの潮流が高まる中、当社も次の100年に向けてサステナビリティ経営を深化させてきました。

そして、機械系事業においてQuintus社買収等の成長市場への積極的な対応を推進するとともに、電力事業では発電所全6基の体制を立ち上げるなど、あるべき事業ポートフォリオを目指した取組みを進めてきました。

120年の歴史の中で培ってきた多様な事業・技術・人材のかけ算による総合力を活かし、グループ社員全員で「チームKOBELCO」として、「KOBELCOグループ中期経営計画（2024～2026年度）」にて目標とする「魅力ある企業への変革」に向けた取組みを進めています。

2017 「KOBELCOの約束 Next100プロジェクト」始動

2017 品質事案発覚  
→再発防止策/KOBELCO TQM活動の推進

2020 「グループ企業理念」制定

2021 マテリアリティを特定

KOBELCOの

価値創造に  
向けた経営戦略サステナビリティ  
経営の推進

経営基盤

事業別概況

セクション  
データ

# KOBELCOグループの全体像

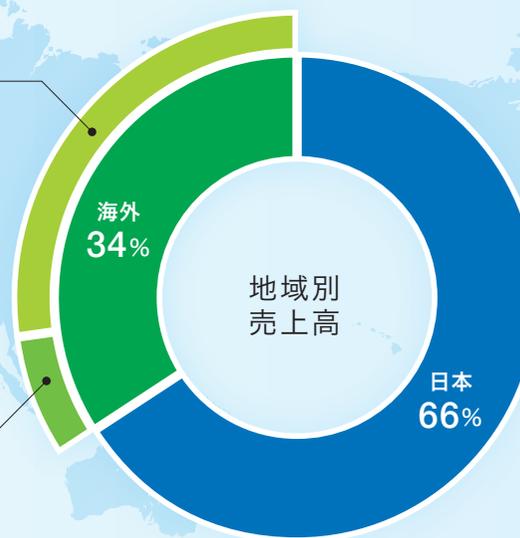


※2024年度の連結売上高には、その他事業89億円も含まれています。

## KOBELCOグループの全体像

## 財務

|                             |                           |                            |
|-----------------------------|---------------------------|----------------------------|
| 資本金(連結)<br><b>2,509億円</b>   | 連結売上高<br><b>2兆5,550億円</b> | 総資産<br><b>2兆8,910億円</b>    |
| 設備投資(支払額)<br><b>1,132億円</b> | 有形固定資産<br><b>1兆471億円</b>  | 社会貢献活動費用<br><b>約9億6千万円</b> |

その他の地域  
27%アメリカ  
7%

## 人材

様々な分野の情報、技術に精通した多様性のある人材の活躍

|                           |                        |                       |
|---------------------------|------------------------|-----------------------|
| 社員数(連結)<br><b>39,294人</b> | グローバル展開<br><b>23カ国</b> | グループ会社<br><b>243社</b> |
| 育休復帰率<br><b>100.0%</b>    | 女性管理職比率<br><b>3.6%</b> |                       |



## 技術

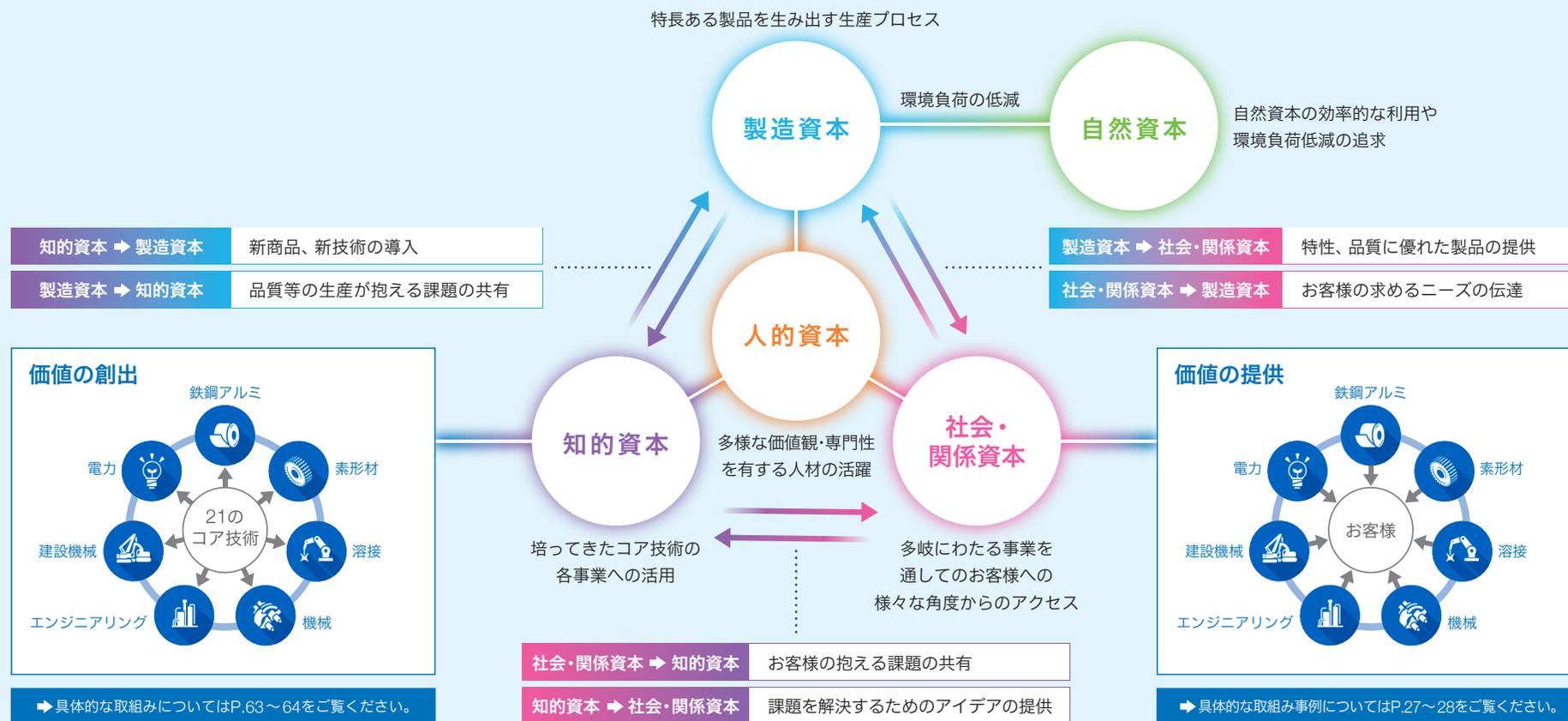
幅広い専門性を活かし、社内外との連携で新たな価値を創出

|   |   |                          |
|---|---|--------------------------|
| 研究開発費<br><b>435億円</b>   | 知的財産権利保有数<br><b>7,191件</b>                              | <b>21のコア技術</b>           |
| 生産プロセスにおける<br>CO <sub>2</sub> 削減<br><b>22%削減</b><br>(2013年度比) | 技術・製品・サービスによる<br>CO <sub>2</sub> 削減貢献<br><b>6,235万t</b> | 水のリサイクル率<br><b>96.0%</b> |

# 培ってきた経営資本



KOBELCOグループで働く多様な価値観や知見を有する人材が当社グループを支える礎となっています。それぞれの事業領域で活躍する人材から得られる技術やノウハウ、及び市場やお客様から得られる情報は、グループ全体に共有・活用されることで、単体の事業では成し得ない当社グループ独自の価値を提供しています。近年の気候変動対応をはじめとした社会要請への対応はライフサイクル全体を見通した総合的な提案が求められていることから、当社グループの有する経営資本のより有効的な活用が必要となっています。今後も経営資本の強化を続けることで、多様な事業を営む当社グループならではの価値(コングロマリット・プレミアム)をお客様に提供していきます。



## 培ってきた経営資本



|  | インプット  | アウトプット   | 課題・資本強化に向けた取組み   |
|--|--|--|--|
|  <b>財務資本</b>      | <ul style="list-style-type: none"> <li>株主資本：1兆17億円</li> <li>総資産：2兆8,910億円</li> <li>純資産比率：42.8%</li> <li>有利子負債：8,863億円（リースを含む）</li> <li>D/Eレシオ：0.76倍</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>売上高：2兆5,550億円</li> <li>経常損益：1,571億円</li> <li>ROIC：6.9%</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>収益体質の強化</li> <li>低収益資産の圧縮</li> <li>資本構成の改善</li> </ul>   |
|  <b>人的資本</b>      | <ul style="list-style-type: none"> <li>連結社員数：39,294人</li> <li>外国籍社員数：109人</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>女性管理職比率：3.6%</li> <li>育休復帰率：100.0%</li> <li>休業災害度数率：0.27</li> <li>社員研修受講時間：44.2時間（1人当たり）</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>多様な人材の採用</li> <li>D&amp;I推進</li> <li>成長・挑戦意欲につながる配置</li> <li>能力・役割に応じた処遇</li> <li>人材育成</li> <li>働き方変革の推進</li> <li>人権意識の向上</li> <li>安全・健康な職場づくり</li> </ul>   |
|  <b>製造資本</b>      | <ul style="list-style-type: none"> <li>設備投資額（支払額）：1,132億円</li> <li>有形固定資産：1兆344億円</li> <li>減価償却費：1,224億円</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>粗鋼生産量：596万t（高砂含む）</li> <li>品質ガイドライン認定拠点率：84%</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>グローバル生産体制の構築</li> <li>デジタル技術の導入によるスマートファクトリー化</li> <li>ホワイト物流</li> <li>CO<sub>2</sub>削減貢献をはじめとした社会に貢献する製品の提供</li> </ul>   |
|  <b>知的資本</b>     | <ul style="list-style-type: none"> <li>21のコア技術 <a href="#">▶詳しくはP.63</a></li> <li>研究開発費：435億円</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>知的財産権利保有数：7,191件</li> <li>新規事業のアイデア創造数：7件</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>コア技術のかけ合わせによる新たな価値の創出</li> <li>知的財産活動の強化</li> <li>カーボンニュートラルに寄与する技術・製品の早期開発・実用化</li> <li>産学連携によるイノベーションの創出</li> </ul>   |
|  <b>社会・関係資本</b> | <ul style="list-style-type: none"> <li>グローバル展開：23ヵ国</li> <li>グループ会社総数：243社</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>国内外の機関投資家及びアナリストとの個別対話：187社</li> <li>社会貢献活動費用：約9億6千万円</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>ステークホルダーの皆様との対話強化</li> <li>お客様への新たな価値の提供</li> <li>責任あるサプライチェーンの構築</li> <li>地域社会への貢献</li> </ul>  |
|  <b>自然資本</b>    | <ul style="list-style-type: none"> <li>エネルギー使用量：180PJ</li> <li>水使用量：1,372百万m<sup>3</sup><br/>（水利用の多い国内グループ会社を含む）</li> </ul>                                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>生産プロセスにおけるCO<sub>2</sub>削減：22%削減（2013年度比）</li> <li>技術・製品・サービスによるCO<sub>2</sub>排出削減貢献：6,235万t</li> <li>水のリサイクル率：96.0%</li> <li>規制地域における汚濁物質（COD、総りん）排出量<br/>COD：220t<br/>総りん：7t</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>生産プロセスにおけるCO<sub>2</sub>削減</li> <li>CO<sub>2</sub>削減貢献製品の採用拡大</li> <li>資源循環の促進           <ul style="list-style-type: none"> <li>水リサイクル率</li> <li>規制地域における汚濁物質（COD、総りん）排出量の削減</li> </ul> </li> </ul> |

# 企業価値向上のための重要課題(マテリアリティの特定)



KOBELCOグループは、5つのマテリアリティに取り組むことで、持続的な成長を達成していきます。マテリアリティの各項目については具体的に実現するための指標・目標を設定し、その進捗を管理しています。指標・目標については取締役会及び経営審議会で進捗を確認することで活動内容の見直し・強化等の必要な取組みについて議論を行っています。

マテリアリティに関する具体的な指標・目標及び進捗はP.55をご覧ください。

## マテリアリティの特定プロセス



\*1 参照したフレームワーク、ガイドライン等

- 国連グローバル・コンパクト10原則
- 持続可能な開発目標 (SDGs)
- OECD多国籍企業行動指針
- ビジネスと人権に関する指導原則
- GRIスタンダード
- SASBスタンダード
- ISO26000

当社グループにとっての重要度と、社会ニーズの大きさ、ステークホルダーの皆様にとっての重要度から抽出された社会課題

- |               |               |
|---------------|---------------|
| 価値創造領域        | ① 都市インフラ不足    |
|               | ② 都市インテリジェンス化 |
|               | ③ 都市の洪水対策     |
|               | ④ 都市の公衆衛生     |
|               | ⑤ 気候変動への対応    |
|               | ⑥ 水資源確保       |
|               | ⑦ 海洋汚染への対応    |
|               | ⑧ ロボット工学進化    |
|               | ⑨ 自動運転技術      |
|               | ⑩ 3Dプリンティング技術 |
| 経営基盤領域        | ⑪ IoT・クラウド・DX |
|               | ① 気候変動への対応    |
|               | ② 人権          |
|               | ③ 労働          |
|               | ④ ダイバーシティ     |
|               | ⑤ 安全衛生        |
|               | ⑥ コンプライアンス    |
|               | ⑦ 品質          |
| ⑧ リスクマネジメント*2 |               |

| 特定したマテリアリティ           | 関連するSDGsの目標  | 関係性の深い経営資本 |      |      |      |         | 事業戦略に反映する具体的な取組み                                  |
|-----------------------|--|------------|------|------|------|---------|---|
|                       |  | 財務資本       | 人的資本 | 製造資本 | 知的資本 | 社会・関係資本 |   |
| グリーン社会への貢献            | 12 持続可能な消費と生産, 13 気候変動への対応, 14 海洋資源の持続可能な利用, 15 陸域生態系の持続可能な利用      | ●          |      | ●    | ●    | ●       | ● 気候変動対応<br>● 資源循環対応                              |
| 安全・安心なまちづくり・ものづくりへの貢献 | 7 エネルギーの持続可能な利用, 8 持続可能な産業と雇用, 9 持続可能な都市とコミュニティ, 11 持続可能な都市とコミュニティ | ●          |      | ●    | ●    | ●       | ● 「S+3E」*3のエネルギー供給<br>● ニーズに即した素材・機械の提供           |
| 人と技術で繋ぐ未来へのソリューション提供  | 3 持続可能なエネルギー, 8 持続可能な産業と雇用, 9 持続可能な都市とコミュニティ                       |            | ●    | ●    | ●    |         | ● デジタル化によるものづくり・業務変革 (DX)<br>● 多様な知的資産の融合と革新      |
| 多様な人材の活躍推進            | 3 持続可能なエネルギー, 5 ジェンダー平等, 8 持続可能な産業と雇用, 10 持続可能な社会                  |            | ●    |      |      |         | ● 組織の多様性の向上<br>● 活躍できる環境の整備<br>● 一人ひとりの成長・挑戦の促進   |
| 持続的成長を支えるガバナンスの追求     | 8 持続可能な産業と雇用, 9 持続可能な都市とコミュニティ, 10 持続可能な社会, 16 平和と公正               | ●          |      |      |      | ●       | ● コンプライアンス・リスク管理<br>● 人権尊重 ● 安全衛生<br>● 品質保証 ● TQM |

\*2 環境法令・防災等のトップリスクを含む

\*3 S+3E : Safety + Energy Security, Economic Efficiency, Environment

# 外部環境変化の反映



KOBELCOグループがマテリアリティ(重要課題)の解決に取り組むためには、外部環境変化を的確に捉えて経営戦略に反映させていく必要があります。今後も様々な外部環境変化を把握し、事業活動を遂行する際に生じるリスクや機会を的確に捉え、求められる対応を着実に遂行してマテリアリティの解決に取り組んでいきます。中期経営計画(2024~2026年度)においても、以下の外部環境変化がマテリアリティに及ぼす影響を認識し、事業戦略に反映しています。

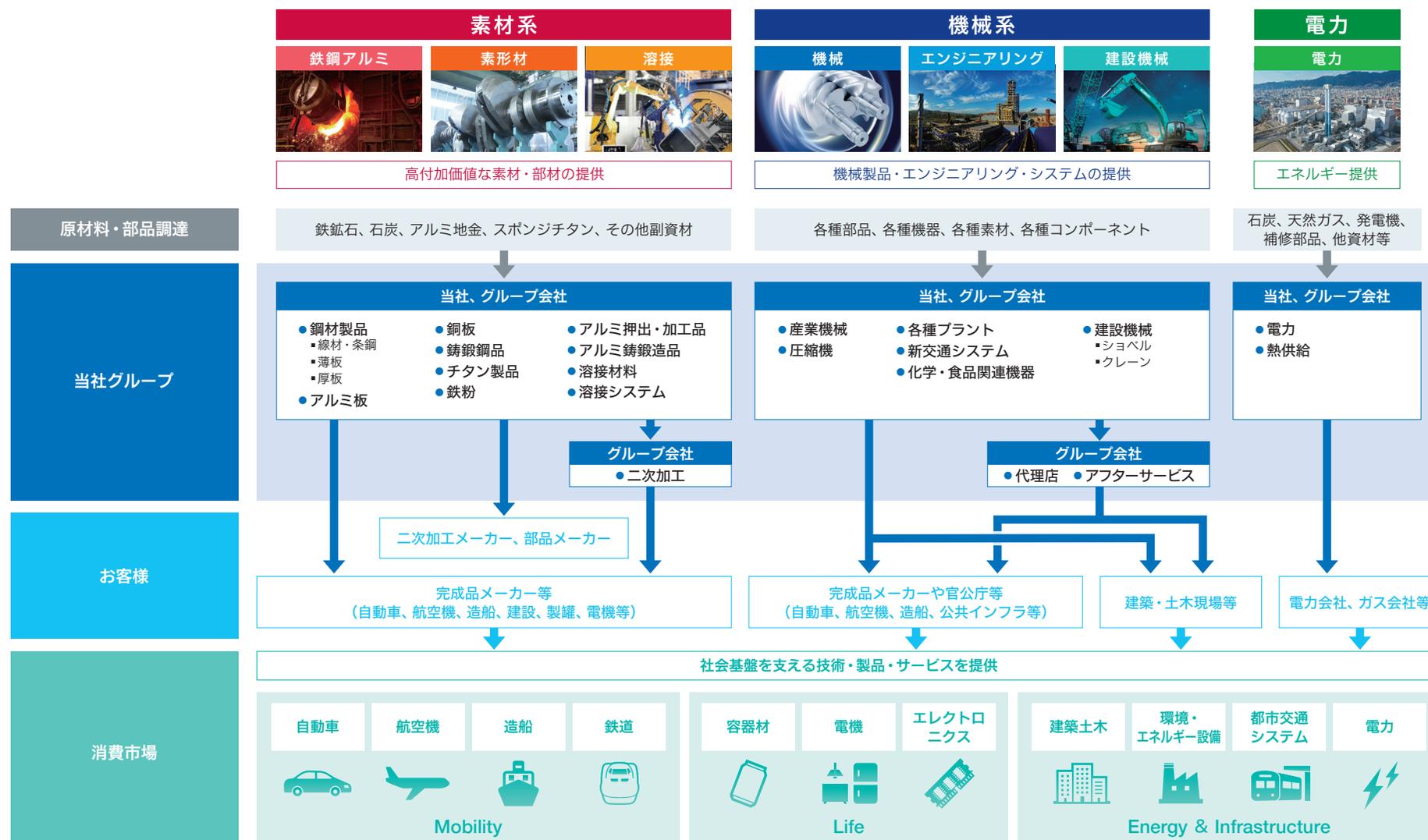
| 外部環境変化                 | リスク                                       | 機会  | 求められる対応   |
|------------------------|---|---|---|
| 国内外での人口構造の変化<br>都市化の進展 | ●日本国内の人口漸減に伴う国内需要の減少                      | ●新興国を中心とした人口増加に伴う需要拡大(都市化の進展によるインフラ整備、自動車をはじめとした消費財の需要拡大) | ■ <b>地域ごとの需要変化への対応</b><br>地域ごとの成長の違いを捉え、エネルギー、インフラ、消費財等の需要に対応した事業展開を推進するとともに、労働力不足に対応した自動化やデジタル化によるビジネスチャンスの捕捉  |
|                        | ●労働力不足による持続的・安定的な操業の難航                    |   | ■ <b>人的資本への取組み強化</b><br>安定した人材確保のための社内制度や就労環境の最適化及び人手不足に対応した自動化、省人化等の技術面での対応強化  |
|                        | ●素材系事業の低迷長期化                              |   |   |
| 持続可能な社会に向けた要請          | ●循環経済移行に伴うコスト増加や供給不安定化<br>➡インフレ加速によりリスク増加 | ●新たな産業・製品やお客様のニーズを背景とした成長機会の出現                            | ■ <b>カーボンニュートラルへの対応強化</b><br>● <b>自社生産プロセスのCO<sub>2</sub>削減</b><br>電力インフラや水素をはじめとしたエネルギー供給の動向等の外部環境も把握しながら、自社の製鉄プロセス及び電力事業のCO <sub>2</sub> 削減<br>● <b>技術・製品・サービスによるCO<sub>2</sub>排出削減貢献</b><br>循環経済やCO <sub>2</sub> 削減に寄与する技術・製品・サービスをビジネス機会と捉えた既存事業の強化と新規事業の創出 |
|                        | ●排出量削減要求の高まりやレピュテーションリスク                  |   |   |
| 安全保障と地政学リスク            | ●地政学リスクを受けた資源価格の変動性拡大                     | ●サプライチェーンやエネルギー需要の変化による新たな需要機会の出現                         | ■ <b>エネルギー需要の変化に対応した技術・製品・サービスの提供</b><br>エネルギー転換により需要が増加する産業分野向けの技術・製品・サービスの採用拡大  |
|                        | ●サプライチェーンの分断と地産地消ニーズの高まり                  |   | ■ <b>自社を取り巻くサプライチェーンに対する対応強化</b><br>安全保障と地政学リスクを考慮した自社を取り巻くサプライチェーンに対するリスク管理と対応力の強化   |
|                        | ●保護主義の対応                                  |   |   |
| テクノロジーの進歩              | ●新技術の発達や技術開発競争の激化による既存技術の陳腐化又は競争優位性の喪失    | ●脱炭素化やデジタル技術の進展に伴う事業機会の創出                                 | ■ <b>DXを活用した競争優位性の確保</b><br>変化の激しいテクノロジーの進歩を捕捉し、自社の攻めと守りの両面での活用促進<br>●新技術、新製品への活用<br>●脱炭素化への活用<br>●人的資本の取組み強化への活用   |
|                        |   | ●DXを通じた効率化や省人化による競争優位性確立                                  |   |



# ビジネスモデルと提供価値



当社グループは、社会課題に挑み続けるグループの総合力により、多様な技術・製品・サービスを創出しています。



# 技術・製品・サービスを通じた社会価値の創出



素材系
鉄鋼アルミ
素形材
溶接
機械系
機械
エンジニアリング
建設機械
電力
電力

| Mobility <sup>※1</sup>   | Life <sup>※2</sup>  | Energy & Infrastructure <sup>※3</sup>  |
|--|---|--|
| <div style="background-color: #800000; color: white; padding: 5px; text-align: center;">高付加価値な<br/>素材・部材の<br/>提供</div> <div style="background-color: #800000; color: white; padding: 5px; text-align: center;">高張力鋼板(ハイテン)</div>   | <div style="background-color: #800000; color: white; padding: 5px; text-align: center;">アルミボトル缶材</div> <div style="background-color: #800000; color: white; padding: 5px; text-align: center;">アルミディスク材</div> | <div style="background-color: #800000; color: white; padding: 5px; text-align: center;">ロングライフ塗装用鋼板<br/>「エコビュー®」</div> <div style="background-color: #800000; color: white; padding: 5px; text-align: center;">KOBEMAG®</div> <div style="background-color: #800000; color: white; padding: 5px; text-align: center;">ARCMAN™<br/>SENSARC™シリーズ</div> <div style="background-color: #800000; color: white; padding: 5px; text-align: center;">REGARC™</div> <div style="background-color: #800000; color: white; padding: 5px; text-align: center;">9%Ni鋼用<br/>溶接ロボットシステム</div> |
| <div style="background-color: #800000; color: white; padding: 5px; text-align: center;">アルミパネル材</div> <div style="background-color: #800000; color: white; padding: 5px; text-align: center;">サスペンション用<br/>アルミ鍛造部品</div> <div style="background-color: #800000; color: white; padding: 5px; text-align: center;">アルミ押出・加工品</div>             | <div style="background-color: #800000; color: white; padding: 5px; text-align: center;">端子・コネクタ用<br/>銅合金</div>  | <div style="background-color: #008000; color: white; padding: 5px; text-align: center;">エネルギーの<br/>提供</div> <div style="background-color: #008000; color: white; padding: 5px; text-align: center;">神戸発電所1・2号機</div> <div style="background-color: #008000; color: white; padding: 5px; text-align: center;">神戸発電所3・4号機</div> <div style="background-color: #008000; color: white; padding: 5px; text-align: center;">真岡発電所1・2号機</div>   |
| <div style="background-color: #800000; color: white; padding: 5px; text-align: center;">鉄粉</div> <div style="background-color: #800000; color: white; padding: 5px; text-align: center;">クランクシャフト</div> <div style="background-color: #800000; color: white; padding: 5px; text-align: center;">航空機エンジン部品<br/>向けチタン</div>                    |   | <div style="background-color: #008000; color: white; padding: 5px; text-align: center;">エネルギーの<br/>提供</div>  |
| <div style="background-color: #800000; color: white; padding: 5px; text-align: center;">鋼めっきなし<br/>ソリッドワイヤ</div> <div style="background-color: #800000; color: white; padding: 5px; text-align: center;">FAMILIARC™<br/>MIX-1TR</div> <div style="background-color: #800000; color: white; padding: 5px; text-align: center;">AXELARC™</div> |   | <div style="background-color: #008000; color: white; padding: 5px; text-align: center;">ポリエチレン用<br/>樹脂用混練造粒機</div> <div style="background-color: #008000; color: white; padding: 5px; text-align: center;">LNG気化器 (ORV)</div> <div style="background-color: #008000; color: white; padding: 5px; text-align: center;">スクリュ式<br/>非汎用圧縮機</div> <div style="background-color: #008000; color: white; padding: 5px; text-align: center;">スクリュ式汎用圧縮機<br/>「エモロード」</div> <div style="background-color: #008000; color: white; padding: 5px; text-align: center;">鋼板製消化槽</div>         |
| <div style="background-color: #000080; color: white; padding: 5px; text-align: center;">設備・システム・<br/>エンジニアリング<br/>の提供</div> <div style="background-color: #000080; color: white; padding: 5px; text-align: center;">等方圧加圧装置</div> <div style="background-color: #000080; color: white; padding: 5px; text-align: center;">マルチ・自動車解体機</div>   | <div style="background-color: #000080; color: white; padding: 5px; text-align: center;">半導体シリコンウェハ<br/>検査装置</div>   | <div style="background-color: #008000; color: white; padding: 5px; text-align: center;">MIDREX®プロセス</div> <div style="background-color: #008000; color: white; padding: 5px; text-align: center;">KOBELCO<br/>パレタイジングシステム</div> <div style="background-color: #008000; color: white; padding: 5px; text-align: center;">水処理設備</div> <div style="background-color: #008000; color: white; padding: 5px; text-align: center;">ストーカ式焼却炉</div> <div style="background-color: #008000; color: white; padding: 5px; text-align: center;">建物解体機</div>                                 |
|  |   | <div style="background-color: #008000; color: white; padding: 5px; text-align: center;">都市交通システム</div> <div style="background-color: #008000; color: white; padding: 5px; text-align: center;">クローラークレーン</div> <div style="background-color: #008000; color: white; padding: 5px; text-align: center;">後方超小旋回ショベル</div> <div style="background-color: #008000; color: white; padding: 5px; text-align: center;">「eマク」搭載<br/>スクラップローダ</div> <div style="background-color: #008000; color: white; padding: 5px; text-align: center;">電力</div>                                    |

※1 Mobility: 自動車、航空機、造船、鉄道

※2 Life: 容器材、電機、エレクトロニクス

※3 Energy & Infrastructure: 建築土木、環境・エネルギー設備、都市交通システム、電力

KOBELCOの  
価値創造

価値創造に  
向けた経営戦略

サステナビリティ  
経営の推進

経営基盤

事業別概況

セクション  
データ

# 価値創造事例

## 自動車分野でのライフサイクル全般における価値提供

多様な事業を有するKOBELCOグループでは、お客様の製品ライフサイクル全般にわたって、様々な技術・製品・サービスを提供しています。

それぞれの事業領域、製品分野での販売にとどまらず、ライフサイクルの各ステージに関わっている強味を活かして最適な提案を行うことで、安全・安心なまちづくり・ものづくりへの貢献に取り組んでいます。

ここでは自動車分野の例を示していますが、開発・設計段階から再生段階までのライフサイクルの各ステージで、様々な技術・製品・サービスを提供しています。

## CO<sub>2</sub>削減貢献の観点から見た、自動車のライフサイクルに対するKOBELCOグループの貢献例



■ 素材系 ■ 機械系

## 価値創造事例

### 半導体産業への価値提供

KOBELCOグループは半導体産業においても素材系事業、機械系事業の両面から様々な技術・製品・サービスを提供しています。  
 長年培ってきたこれら多様な技術をかけ合わせ、半導体産業におけるお客様の課題解決につながるソリューションと価値を提供していきます。

